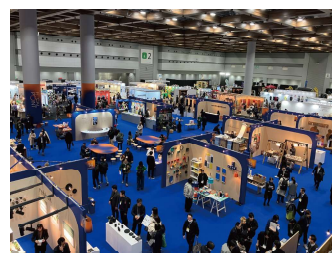
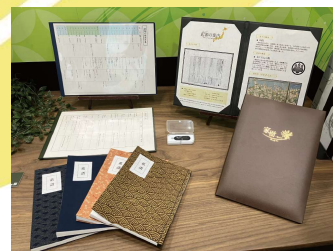
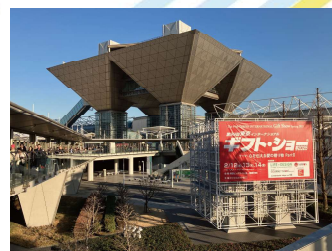


2025 年 3 月
No.477 号

MORIMATSU



TREND RESEARCH



WHAT?

「ギフト・ショー」は様々な商品売りたい出展社と、新商品を求める来場者が集まり、ビジネスに繋がる商談を行うトレードショーです。
来場者アンケートでは、仕入れに関する何らかの決定権を有するバイヤーの割合は約6-7割。決定権のある担当者と直接話ができる絶好の機会に満ちています。

COMMENT!

新商品や旬な商品をいち早く知るためには、やはりリアルな見本市が最適です。見て触って感じたことで、ここから何ができるか常に考え行動していきます。

- 総来場者数 -

143,070人

- 総出展社数 -

1,597社

- 次回 -

2025年9月3～5日



ものづくり、と、ことづくり

森 直樹 (代表取締役社長)



中小規模の製造業、いや規模を問わず製造業の衰退を顕著に感じております。要因として人口の減少、安価な海外品の流入、デジタル化によるペーパーレス化、後継者不在、物価高による資材と光熱費高騰、、、いくらでも悪い話は出てきます。とはいえ、生きている以上様々なモノを消費するのが我々人間です。既存の製造業が衰退はすれど、新たに生まれる製造業もあり、製造業自体は無くなりません。発売以来何十年と使われたが、環境の変化により需要が無くなるモノがあれば、「亀の子たわし」のように運良く(?) 100年以上形を変えずに市場に出ている商品もあります。今あるものを「作り続ける」ことが製造業の役割であれば、衰退していくのが常です。これからの市場を製品や技術によって「創り出す」こともこれからの製造業に課せられた使命ではないでしょうか。それは画期的な製品をゼロから創り出すということではなく、次の製品に繋がるような技術革新のことであったり、製品や技術の今までにない組み合わせによって新しいモノが生み出していくということです。つまり既成概念に囚われない、柔軟な視点で考えることが必要です。またモノ単体で捉えるのではなく、それをどう使うか、どのような体験が得られるのかというコトを含めて提案することで、より製品の価値をアピールすることも求められます。さらに我々の製品とデジタル技術 (IC チップ・QR コード・GPS 等) との組み合わせでどのようなメリットが出せるでしょうか。これらデジタル技術は我々の生活の中で必要不可欠のものです (スマホの無い生活は想像出来ないように)、そこに無限の可能性があると私は思います。モノを作ることを通じて、新たな価値を提案する、そんなモノづくりを実現します。

殿堂入り

吉岡 孝記（営業部）



イチロー選手が米野球殿堂入りを果たしました、これは日本人初、アジア人初の快挙です。あの野茂選手でさえ果たせなかった殿堂入りです。残念ながら全員一致ではありませんでしたが、そこはイチロー氏、票を入れなかった1名を自宅に招待するとユーモアで答えました。殿堂入りの条件は、時代により変わっては来ていますが、打者では3000本安打や500本塁打、投手では300勝を達成すれば、多くの場合殿堂入りされるようです。イチロー氏の成績は安打数、日本で1278安打、MLBで3089安打日米通算4367安打になります。それとは別にMLBシーズン最多安打記録262安打や1年目に最多安打、盗塁で最多を記録、新人王、MVPにも輝きました。こんな選手はもう出てこないかもしれません。大谷選手であれば1500安打150勝ホームラン300本ぐらい打てば殿堂入りできるでしょうか。引退した今はシアトル・マリナーズでインストラクターを務め若い選手の育成に力を入れており、日本では女子野球との交流や高校へも指導にも行っています。努力の天才と言われたイチロー氏今でも現役と同じトレーニングをこなしているようで、高校生などの指導をするとき、言葉でいうだけでなく実際に打つ姿、投げる姿を見せて教えています。そのため少しでも現役に近い姿を見せたいためだと聞いて、頭が下がりました。ここで少しイチロー氏の名言格言を紹介します。【プレッシャーにつぶれるようだったら、その選手はそこまで。】【どうやって、ヒットを打ったかが問題です。たまたまでたヒットでは何も得られません。】【逆風は嫌いではなく、ありがたい。どんなことも、逆風が無ければステップにいけないから。】【結果が出ない時、どういう自分でいられるか。決してあきらめない姿勢が、何かを生み出すきっかけをつくる。】【考える労力を惜しむと前に進むことを止めてしまうことになります。】【手抜きをして存在できるものが成立することはおかしい。】【壁というのは、出来る人にしかやってこない。超えられる可能性がある人にしかやってこない。だから、壁があるときはチャンスだと思っている。】【進化する時ってというのは、カタチはあんまり変わらない。だけど、見えないところが変わっている。それがほんとの進化じゃないですかね。】仕事にも通じる名言もたくさんあるように感じました。まだまだ元気で野球界を盛り上げていってほしいと感じます。愛知県のヒーローイチロー。

夫婦別姓と夫婦別制

大石 耕平（東京オフィス）



経済界のボスっぽいおじさんが、夫婦別姓の導入を記者会見で主張していた。国際基準で仕事をする上で必要なのだろう。導入は既に個人に対して番号が付与されているから多少ドタバタする位で済むのではないかと思う。社会が混乱する、破壊されるという意見もあるが、それくらいで壊れるような社会は壊れて作り直した方がいいという声もある。選択制か強制か、議論を尽くして導入するかどうか決めてもらいたい。他人事のように述べているのは、他人事だからだ。我が家はすでに夫婦別制である。（別姓ではない）どういう名を名乗るかは、個人の権利の問題だ。選べるようになるのが自然だ。夫婦は個別に行動する時間がもっとあってよい。僕個人の意見だが、日本の夫婦は一緒にいすぎる。四六時中一緒にいるように見える夫婦も見受けられる。「夫婦で笑顔の絶えない家庭を作りたい」なんて言葉を見聞きするが、いまでは理想と感ずることもある。よく「結婚は笑顔の7日間が終われば、苦難と絶望で身を削りながら進んでいく地獄の進軍である。」という話を聞いたことがある。たしかにハードモードな地獄の進軍では名前などどうでも良くなってくる。生きるか死ぬか、そこでは名前の価値は意味をなさないのである。事実、我が家で私の名前はなくなって久しい。育ちのいい僕は、奥様の名を「ちゃん」付けて呼ぶが、奥様は僕を「ねえ」「ちょっと」と愛と親しみを込めて呼ぶ。機嫌がいいときは「お父さん」。すでに名前は死んでいる。そのため、名前や別姓などどうでもいいのである。別姓とは、夫婦それぞれが個人としての権利を持つということ。別々の姓を名乗るのはあくまでその一部にすぎない。我が家はお互いを尊重した各々独立した生活ができています。歯ブラシを共有したり、風呂やトイレを一緒に使ったりすることはない。食事は同じものを食べた方が経済的なので同じものを食べているが、休日の半分以上は個々に自由に行動する。互いに趣味を押し付ける事も無い。ときどき奥様から意見や思想を押し付けられる事はあるが、そこはサラリーマン生活で覚えた表面賛成で乗り切れば良い。夫婦別姓が夫婦各々の権利を守るものなのか懐疑的だ。別々の姓を名乗ったくらいで経済的自立を勝ち取れるとは思えない。先述のとおり、ハードコアな夫婦関係において名前は失われる。名前よりも大事なものは金である。夫婦間の独立がなされていても、事実上何もできない。個人の権利は経済的独立の上に成立するのだ。なお小遣いベア交渉は、「あなたにもっと経済力があれば考慮してもいい」という悪魔の一言で打ち切られてしまった。そう、進軍はまだはじまったばかりだ。

広島旅行

加藤 遥（企画営業部）



先月、ポカリスエットを片手に現れたハングオーバーの友人と広島に旅行に行ってきました。広島を選んだ理由としては世界遺産に登録されている戦争の記憶を刻む原爆ドームと日本三景である日本の美と信仰を象徴する厳島。日本の歴史と世界平和を象徴する2つの遺産です。原爆ドームは1945年8月6日の原子爆弾投下によって廃墟となった広島県産業奨励館の遺構です。戦争の悲劇を後世に伝えるため、当時の姿のまま保存され、1996年には世界遺産に登録。被爆の痕跡を視覚的に残した世界で唯一の建物です。広島湾に浮かぶ厳島は、古くから信仰の対象とされてきた神聖な島。海上に立つ朱塗りの大鳥居は、日本を代表する絶景の一つ。1日目の日が暮れてから原爆ドームに行き、写真やテレビでみる以上に息を呑むほどの原爆の恐ろしさを感じ、平和の大切さや日常の有り難さを認識させられる遺産でした。2日目には現地の共通の友達も合流し厳島神社を目指し宮島へ。フェリーを降りて表参道商店街では鹿を横目に寒さで食べ歩き。厳島神社は海上に立つ社殿は幻想的な雰囲気があり別世界に足を踏み入れたような場所でした。自然と歴史、戦争の悲惨さと平和の尊さ。広島の多面性を感じられた旅行でした。これからもいろいろな知らない場所を訪れ新しい発見をしていきたいです。



左利き

吉田 翔（森松産業）



私は左利きです。日本の全人口における左利きの割合は、約10%だそうです。世の中にある道具のほとんどは右手での使用を前提に作られているため、不便に感じる場合があります。ハサミやカッター、自動販売機、駅の改札などは、慣れれば何とか使えますが、急須は物理的に注ぐことができません。また、長い机ではなるべく左端の席を取らないと、隣の右利きの人と肘がぶつかってしまいます。字を書く際も、左手だと押しながら書くことになるため、習字では紙が破れたり、払いの部分がバサバサになったりします。さらに、ボールペンはすぐインクが出なくなり、シャープペンシルは押し込むと紙に刺さりやすく、ホワイトボードに書いた字は手でこすって消してしまう（そして手が汚れる）といった問題もあります。これらの対策として、ボールペンは加圧式を使い、シャープペンシルは力の入れ方に気をつけ、ホワイトボードでは手を浮かせて書くようにしています。

しかし、習字だけは右手でなければうまく書けません。最近インターネットで調べたところ、紙を斜めや横に置いて書く、筆を体の内側に傾けると書きやすいという情報を見つけたので、来年試してみたいと思いました。また、岐阜県には左利き専用の道具を扱う専門店があるそうなので、機会があれば訪れてみたいです。左利きでよかったことといえば、マウスを使いながら利き手が空いているので、メモを取れることくらいでしょうか。今さら利き手を変えることはできませんが、工夫しながら上手に付き合っていこうと思います。



卒業式のはじまり

ウィキペディアによれば、『日本では1872年（明治5年）の学制の施行にともない、各学級（学年）ごとに、試験修了者に対して卒業証書を授与したことに起源を持つ。その後、明治10年代ごろ（1870年代半ばから1880年代にかけて）に現在のような独立した儀式として定着した。』とあります。当初は、現在のように、1年生、2年生、3年生…というような学年学級ではなく、就学を希望する子供達には年齢に関係なくまず「下等小学第八級」に入り、試験に合格してその級を「卒業」、七級に進級するというシステムだったようです。つまり進級が卒業だったのです。しかも進級テストは半年単位でした。一方、実際の「卒業式」として記録が残っているのは、「1876年6月29日に陸軍戸山学校で行われた「生徒卒業式」」のが最初ではないかと思われる。その内容から天皇陛下の観兵式と観艦式に付随するものとして開始された。そして、その大掛かりな内容はフーコーのいう「規律」「訓練」を受けた集団に対する眼差しが表現される場であり、なおかつ「近代国家の威信」を示した。さらに東大でも1877年に第一回卒業式が挙行された。」ということです。いずれにせよ明治初期の1870年代に卒業式の起源はありそうです。

小学校で、卒業式が行われ始めたのは、いわゆる師範学校が生まれたことにルーツがあるようです。「新しい儀式は、まず師範学校から小学校へもたらされたからですが、ことは一つの儀式の問題ではなく、日本の近代学校教育システムが開始された全体的な状況に関わっている。そして「師範学校の卒業式は1879年3月13日に行われた東京女子師範学校第一回卒業式であり、皇后陛下を迎えて挙行されました。内容は、演説、答辞、祝辞、理化学試験、作文朗読、証書授与、唱歌（ピアノ伴奏）このあと皇后陛下が附属小学校を視察している間に生徒が準備して、講堂で体操を披露。」（同要約、卒業の歴史学）このあたりに今の卒業式の原型がありそうです。最新の教育成果のプレゼンテーションなど、いまの時代であってもなかなか革新的な内容ですね。そして1895年には文部省から「1等級の標準修学期間が半年から一年へと変更」されます。就学率も上がり、いわゆる学級（クラス）編成が行われ、卒業式は年一回になっていったようです。

犬山モンキーパーク

藤木 方子（森松産業）



先日、父親の27回忌の法要を小牧で行いました。法要自体はお昼前ぐらいに終わり、その後、みんなで食事に行きました。小牧でも犬山寄りなので、その後なぜか、犬山モンキーパークに行こうと話になりました。孫たちは大喜び。孫たちは犬山モンキーパークに行くのは久しぶりみたいで、私達夫婦も何十年ぶりの犬山モンキーパークでした。最初孫たちは、沢山のお猿さんに喜んでいましたが、そのうちお猿さんにも飽きてしまい、園内の観覧車が目にはいい、『ゆーえんちいきたい!』と言い出し、移動。遊園地の観覧車が近づくと『かんらんしゃにのりたいたい!』『めりーごーらんどにのりたいたい!』と言い出し、乗り物に向かって走り出しました。比較的空いていたので、待ち時間もなく次から次と乗れました。メリーゴーランドでは、『あのおうまがいい!』だの『おーきーおうまがいい!』と言い出し何回も乗ることに…。また、園内には、射的やクレーンゲームといったブースもあり、次から次と孫たちは大喜びではしゃいでいました。射的では、自分の欲しいものが取れるまで何度もがんばってチャレンジしていました。たくさん遊んだこともあり、帰りの車では爆睡していました。（笑）

